

平成24年10月26日（金）10時

◇生駒北地区における教育施設整備構想及び仮称南こども園の創設について

市長 生駒北小学校区で1つと南幼稚園とみなみ保育園で1つ、それぞれこども園を創設します。また、生駒北小・中学校区では、小中一貫校を作り、さらに給食センターが建て替えの時期のため、その全てか一部を北地区（現在の生駒北中学校）に移転させる予定です。そのため、議会で平成25年度予算で必要な予算を要求します。

現在、奈良県下では、奈良市、五條市、御所市等で小中一貫教育推進校が指定されており、文部科学大臣から教育課程特例校の認定を受けて、これまでの学習指導要綱によらない特色ある取組を実施しています。例えば、特設教科として英会話をおいたり、小学校5年生から中学校の英語の教科書を使ったりとユニークな取り組みをしていて、本市もこういうことがいざればと思っていたところです。

生駒北小・中学校区では、児童の減少傾向が続いています。本市の推計では、平成26年に、生駒北小学校は学級数が8クラスにまで減り、1学年1クラスに、中学校は、平成27年に学級数が3クラス、1学年1クラスになるだろうと予想されます。2つとも耐震化は終わっていますが、北小学校は校舎が築43年から50年ぐらいい、中学校も築34年から39年ぐらいい、いずれ建て替える必要になってきます。小さいものをそれぞれで建てるよりも小中一貫校として建築して、文部科学大臣の認定をとって特色ある教育課程を実施したらどうかということで決めました。高山幼稚園と北倭保育園について、高山幼稚園は耐震診断の結果から改修が必要です。北倭保育園も築後相当年が経っており、社会福祉法人の理事長からも建て替えたいが、現在の敷地が小さく難しいと聞いています。それであれば一体化して、より広い敷地に移したらどうかと考えました。そうして検討した結果、現在の生駒北小学校の敷地に生駒北小中一貫校を作り、生駒北中学校の敷地に仮称高山こども園を開設して、給食センターも持ってきます。北中学校体育館は壊さずに地域の体育館として地元の皆さんに開放したいと考えています。高山幼稚園は解体後、生駒北小中一貫校の第2グラウンドとして整備します。スケジュールは、生駒北小中一貫校が平成28年4月の開校予定で、高山こども園は平成29年4月の開園予定です。給食センターは、平成30年以降に工事をしてオープンしたいと考えています。これが高山スーパースクールゾーン構想です。

次に、南幼稚園とみなみ保育園は近くに隣接しており、南幼稚園は耐震診断の結果建て替えが必要、みなみ保育園も築41年で建て替えが必要となっています。こども園にすることで、希望に応じて幼稚園の子どもにも給食が出せるし、預かり保育も拡充できます。保育園の子どもも保育園にいながら幼稚園と同様に教育を受けられます。両方にメリットがあるので一体化して建て替えようというものです。生駒市では、こども園の創設は、この高山と南が初めてです。南こども園の開園は平成28年の4月を予定しています。

<質疑応答>

記者：高山スーパースクールゾーンの事業費について、一貫校やこども園、給食センターの大枠の事業費はでているのか。

市：これから基本設計をしていくので金額はまだわからないが、かなりかかると思う。

記者：設計等は別として、用地買収費は含まず工事費だけということになるのか。

市：小学校と中学校の敷地に一部私有地があり、借地料を払っている。この機会に買上げたいと思っているので、その場合一部用地買収費が発生する可能性がある。

記者：地元から何か要望が出ていたのか。

市：北倭保育園は建て替えないといけないと聞いているが、地元からの要望は特に聞いていない。こちらで構想を立てて地元説明に行く。11月7日午後7時から生駒北小学校区で自治会長やPTA対象の地元説明会をして、11日の午後2時から南幼稚園区の自治会長対象の地元説明会を行う。12月2日の午後2時から、北コミュニティセンターで一般市民対象の臨時のタウンミーティングを開催する。メインは北小学校区に住む人だが、高山幼稚園には鹿ノ台小学校区からも多数通っているし、北倭保育園には市内の北部地域からたくさん通っているので北小学校区を中心に市北部の人を対象にと考えている。

記者：現在、給食センターではどれだけの分を作っているのか

市：全小・中学校の分を作っている。

記者：スーパースクールゾーンの計画を実施することによって、新住民が入ってくる余地はあるのか。児童数の推移の見通しはどうなっているのか。

市：パンフレットの市長挨拶の中で述べている目的で実施するが、高山町は旧村であり、ひかりが丘も高齢化が進んでいて、新住民の流入を多く期待できるところではないが、特色ある教育課程が一つの売りになればと考えている。それと、児童数の減少とは関わりなく小中一貫校に是非取り組みたいと以前から考えていたところ。ただ、連携型の学校は県内でも多いが、連携型は課題が多く、市内ではまだ時期尚早と考えていた。一体校とするとメリットの方がとても大きく、是非実現したいと考えている。施設一体型の小中一貫校は、県内で4つしかない。

記者：南こども園は南幼稚園の場所か。

市：南幼稚園の場所になる。現在の保育園の場所の土地活用はまだ決まっていない。

記者：南地区ではタウンミーティングをしないのか。

市：こども園だけの話で、対象が幼稚園や保育所の保護者に限られる。別途子ども子育て支援懇話会で、保護者や関係者に説明する予定。これらの構想は、これから地元説明会やタウンミーティングで意見が出ると思うので、いい意見があれば検討するので見直しの余地が全くないわけではない。

市：新築の小中一貫校は奈良県下で初めてとなる。